中里建設

水理研究開発センターを公開

アクアピグ工法　全国から事業者視察

中里建設（佐野市、中里聡代表取締役）はこのほど、佐野市内にある水理研究開発センターを公開した。アクアピグを用いた特殊洗浄工法の研究・実験施設で、全国から同工法に興味を持つ多数の水道事業者らが視察や研修に訪れている。

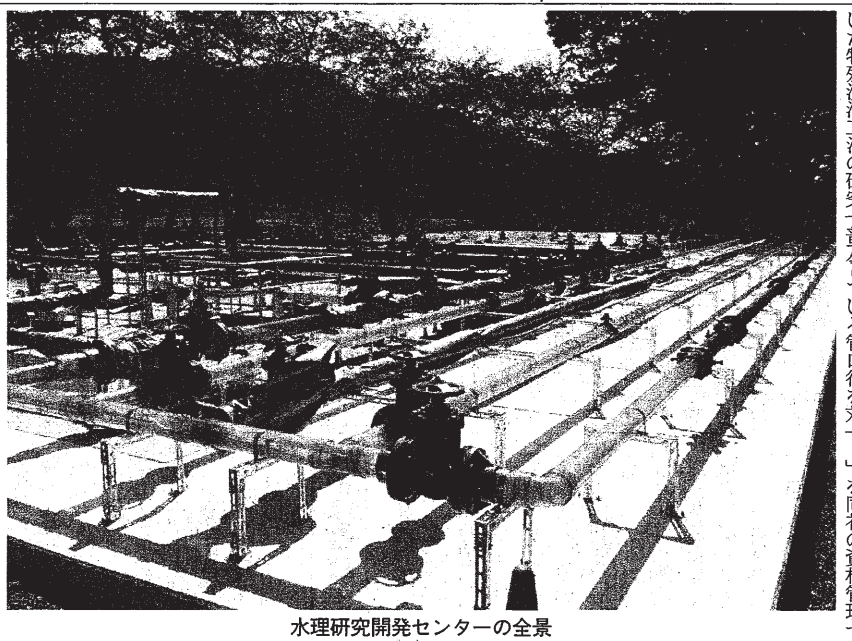
同社は23年、最も多く普及している管口径を対象に、洗浄方法の実験研究を行い、開発を進めるため、模擬配管・実証実験管路を配置した「中里建設水理研究開発センター」を同社の資材管理センター内に整備することを決めた。

まず「23年度栃木県ものづくり技術強化補助金」を活用し、ピグの開発基礎研究を進める施設を整備。管径75～300㍉の透明アクリル管やダクタイル鋳鉄管を配置した。

24年、この成果をもとに、軟質ウレタン発砲加工製品のトップメーカーであるアキレス（東京都新宿区）とアクアピグを共同開発した。

表面に特殊なコーティング加工を施すことにより、相反する圧縮性・復元性をあわせもつ驚異的な品質特性を実現した。

その後、25年度補正「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」で、同社の「安全性と効率性を高度化した水道管内ピグ洗浄システムの研究開発」が選定され、設備の増設に踏み切った。



水理研究開発センターの全景

アクリル管を通過するアクアピグ（上）と開発センターで行われた研修会

既存施設の外側に、延長25㍍の透明アクリル管3列と、延長25㍍のダクタイル鋳鉄管1列のほか、50～20㍉の小口の透明アクリル管や管網を新設。これにより総延長は約300㍍に及ぶ。

本研究では、アクアピグによる摩擦抵抗を計測することで、水圧や摩擦のロスなどの物理特性を解明した。このような研究を通じて、現場に即した最適な工法を確認できるようになった。

同社の酒主政明課長は「アクアピグがどのような条件下で、どのような動きをするのか把握することが一番難しい」と話す。

また「実際の管路は、すべて異なる環境下にあるが、様々な施工条件を克服するために、事前にこの施設で実験することができるので、安全施工にも役立っている」と開発センターの重要性を語った。

この日は、ダイトウアー（新潟市東区）の社員2人が研修に訪れていた。

230～260㍉のアクアピグを用いて、実際に洗浄する方法の説明を受けながら、洗浄の様子を確認していた。

その他、この配管施設を活用して製品開発をしたいと水理実験の申し込みが全国から届いている。

同社の中里代表取締役は「管路の総合的な維持管理体系を構築していきたい」と意欲を示しており、今後、産官学で構成する新たな組織の立ち上げに向けて検討を進めている。

水理研究開発センターやアクアピグ工法などの問い合わせは、中里建設水理部☎0283－62－0272へ。

日刊建設新聞では、定期的に企業ニュース版を掲載しております。

ご購読者の中で、新工法を開発した、新商品をPRしたい、または新しい事業展開の取り組みを紹介してもらいたいなどご要望、ご提案はありませんか？

お気軽に情報をお寄せください。担当者が取材など対応させていただきます。

問い合わせは、☎028－622－8111へ。

表示灯

設置600自治体を突破

広告付案内板「ナビタ」高いサービス

総合広告代理店の表示灯（名古屋市中村区・上田正剛代表取締役社長）はこのほど、茨城県つくば市、大阪府交野市、北海道留萌市、沖縄県浦添市、静岡県御殿場市、富山県黒部市などの庁舎内に、自治体向け広告付きの地図案内板「シティナビタ」を設置し、全国の設置自治体数が累計602カ所（町役場を除く）に達したと発表した。

市役所・区役所は、ロビーなど来庁者の多い場所を設置場所として提供し、同社が設置に掛かる費用や電気代、表示内容の更新（年1回）などの設置に関する費用や設置後のメンテナンス費用を負担する。自治体の負担は一切なく、広告料（もしくは賃貸料）といった税外収入が得られるほか、最近では庁舎案内や行政情報用モニターを併設したものが主流となり、来庁者によりわかりやすく情報発信することで、市民サービスの向上につながると期待されている。

同社の主力商品でもある「ステーションナビタ」（駅周辺案内図）は、全国の主要駅などに設置され、周辺の店舗や医院、会社などを案内する地図情報と広告を兼ねているが、「シティナビタ」は、全国の自治体との協働で、市役所や区役所などの庁舎内に設置され、地図上で公共施設や災害時の避難場所などをより詳しく掲載するといった改良を加えた。

22年6月に、第1号を名古屋市天白区役所に設置して以来、24年3月に78カ所、25年3月に259カ所、26年3月には418カ所、今年3月には541カ所まで設置実績を伸ばし、10月末時点で上記のように600カ所以上への設置を完了した。3月末までにさらに50カ所超の設置を見込んでいる。

問い合わせは、☎052－856－1511へ。

日建設計

国際コンペで優勝

旧マレー鉄道跡地の再開発

日建設計（東京都千代田区・亀井忠夫社長）はこのほど、シンガポール都市再開発局（URA）が主催する「レールコリドー国際設計コンペティ

長）は、日建設計チームのデザイン提案「Lines of Life」について「レールコリドー全体にわたり、コミュニティが主役となる空間とそ

地と遊歩道と自転車道と、更には周辺開発も含めて一体的に編み込まれるという提案は非常に説得性が高い」とコメントした。

デザインチームのリーダーを務めた日建設計都市デザイングループ代表田中亙氏は「この重要